

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都府】

学校名【 京都府立北桑田高等学校 】

1 実践テーマ	【 I ・ III ・ IV 】
2 実施対象者	京都府立北桑田高等学校生徒・教職員 森林リサーチ科1組 1年27人・2年20人・3年22人 普通科2・3組 1年35人・2年35人・3年36人 <div style="text-align: right;">計175人</div> 教職員 38人 <div style="text-align: right;">総計 213人</div>
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育・公民・国語・家庭） ② 行事名（オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演） ③ その他（図書館でのオリンピック・パラリンピック関連図書展示コーナーの設置、スポーツイベントへのボランティア参加、高校生短歌コンクール（オリンピック・パラリンピック讃歌）への1，2年生全員の応募） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの目的や意義を理解し、スポーツへの興味関心を高め、生涯を通してスポーツに親しむ意識を高める。 ・目標に向かって努力することの大切さを認識し、自己肯定感の醸成を図る。 ・多様な種目を体験することで、共生社会の在り方を考える機会とする。
5 取組内容	1 事前取り組み (1) 図書館でのオリンピック・パラリンピック関連図書コーナーの設置による啓発の取組



(2) スポーツイベントへのボランティア参加

- ・ツアー・オブ・ジャパン 2018 第2ステージ京都での記念品(本校森林リサーチ科作成)販売ボランティア

実施日 平成30年5月21日(火)

自転車競技部員が自ら作成した大会記念品を販売。

国際的なトップ選手の競技を見ることにより、競技に対する意識や意欲を高めるきっかけとなった。



(3) 高校生短歌コンクール（オリンピック・パラリンピック讃歌）への1, 2年生全員の応募

優秀賞受賞

「人間て美しいなと気付く夏
跳んで走って全力の君」

(4) 地域の福祉施設での車椅子体験授業



2 オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演 テーマ 「他を識（し）り、己を知る」

講師 パラカヌー日本代表 中嶋 明子 氏
(マルホ株式会社)

日 時 平成 30 年 12 月 18 日(火) 13 : 30 ~ 15 : 10

全校生徒を対象に、パラカヌー日本代表であり、パラパワーリフティングやチェアスキーなど様々なスポーツに取り組みながら、企業の開発担当チーフとして活躍されている 中嶋 明子 氏に「他を識（し）り、己を知る」をテーマに講演をいただいた。

講演では、まず自己紹介として、様々な困難を乗り越え大学、大学院で研究に励みノーベル賞を目指したこと。また、スキー選手として活躍しながら、大学院で博士課程の研究に取り組んでいる中で、交通事故にあい脊髄損傷となったが、挫折はしなかったこと。

現在、企業で研究を続けながら、パラカヌーに取り組みパラリンピックを目指し取り組んでいる話を伺った。



自身がパラアスリートとしてトレーニングしていく中で、一人一人異なる障害の状態をコーチに理解してもらえずに苦しんだこと、現在、海外のコーチの指導を受け、対話を繰り返しながら、オーダーメイドの指導を受けることで、競技力の向上を目指していること。

コーチは選手を観察し、選手と対話して、トレーニングの方向付けを行っていく。選手は、自分の決意を宣言する。宣言することにより、責任が生まれ、実行・実践を行う。

その実践を観察し、対話することで、アップデートを行い、トレーニングの方向付けを行っていく、という、個に応じた、PDCAサイクルを繰り返している。選手、コーチのコミュニケーションなしに、スタートラインに着くことはできない。

このような経験から、「他を識（し）り、己を知る」とは、「他者に対する認識を深め、自己を認知すること」であり、黙っていても相手のことを知ることはできないし、黙っていても自分のことを相手に理解してもらうこともできない。

相手を知るために働きかけることが大切であり、自分のことを理解してもらうことに繋がる。お互いが理解することから、「個人を大切に」することにつながり、相手も、自分も大切にすることができる。



このような講演を、車椅子を自在に操り、生徒や教員と対話しながら行い、生徒達も「他を識り、己を知る」ことについて、考えを深めた。

3事後指導

生徒の感想

- 今回の中嶋さんの講演を聞いて感じたことが2つあります。

1つは、他人を知る前に自分を知ることが大切だということです。自分が今何をしたいのか、何を伝えたいのかを知っておかないと、うまく相手に伝わらないし、コミュニケーションもとれないからです。もう1つは、他を変えるにはまず自分から変わるということです。自分が相手に、こうしてほしい、ああしてほしい、と思ってもなかなか変えることができないけれども、自分から変わることによって、相手も変わってくるのだなと思いました。（1年女子）

- 中嶋さんの話を聞いて、自分を相手に知ってもらうこと、そして相手のことを知る大切さを知ることができた。

中嶋さんの様々な経験の中から、色々な辛いことやうれしいことを共感できる部分がある自分にもあり、より深く感じさせられた。

相手がどのような人か知るために、まず対話をし、そこからその人に合ったアプローチをしていくということが、どんなに大切か、すごく感じさせられた。

障害があったとしても、今の自分にできることを、そして夢を常に考え前を向いて生きていく中嶋さんの姿はすごく尊敬したいし、自分

	<p>もネガティブをポジティブに思考して生きていきたい。 (2年男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演を聴いて、どんな壁にぶち当たっても前向きに生きていくことが重要だと分かった。障害にも負けず、自分のしたいことをする姿勢はとてもすごいと思った。私はこれから色々なことに責任を持って毎日を過ごしていきたい。(3年男子) ・どんな人と接する時でも、しっかり対話をするのが大切だということが改めて分かった。他を識ることで自分を知ることができるのだということも分かった。 <p>夢を持つことが大切で、目標に向かって努力したい。(3年女子)</p>
6 主な成果	<p>1 ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通して、世界レベルの大会や選手を実際に見て感じることで、競技に対する意識が高まった。 <p>2 授業での取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業で1、2年生全員が「高校生短歌コンクール(オリンピック・パラリンピック讃歌)」に応募し、オリンピック・パラリンピックに向けた関心が高まるとともに、自らの生活の中から友情や感動、共感、感謝などの感覚を醸成することができた。また、優秀作品にも選ばれた。 ・家庭科での車椅子体験や高齢者福祉施設での介護体験などを通して、共生社会について考えることができた。 <p>3 講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な困難にぶつかっても挫折することなく、常に前向きに物事を捉え、夢を持って取り組んでいく、勇気や努力、人間の持つ可能性を多くの生徒が感じ取ることができた。 ・講演を通して、自己を認識することの大切さ、他者と対話することの大切さ、共感することの大切さ、一人一人違う個性を大切にすることなどに気付くことができた。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生短歌コンクールへの参加など、授業を通してオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを実践できるよう、各教科で取り組んでもらった。 ・講演に向けて、講師との連絡を密にし、車椅子で自由に体育館を移動するための座席配置などを行った。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の都合をふまえ、学習指導計画や他の学校行事をそこなうことなく、日程を調整する必要がある。 ・スポーツだけでなく、ボランティア活動や共生社会、おもてなしや文化交流などにもさらに積極的に取り組んでいきたい。 ・PTA、地域、小中学校へも参加を呼びかけたい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・未定